

72歳男性。生来健康。特記すべき既往症なし。

血尿が出現し、病院を受診したところ、膀胱がんの診断を受けた。手術のため全身状態の精査を行ったところ、左上葉に腫瘍が見つかり、肺がんと診断された。

肺がん、膀胱がんそれぞれ手術(平成X年6月10日;左肺上葉切除術、平成X年7月25日;経尿道的腫瘍切除術)が行われ、病理組織検査の結果、肺がんは扁平上皮癌、膀胱がんは移行上皮癌であった。

手術後も経過観察を行っていたが、1年半後に肺に再発巣がみられ、再発巣の増大に伴い身体が衰弱し、初診の約2年後に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

施設の名稱			
死亡の原因	(ア) 直接死因	原発性左肺上葉扁平上皮癌	約2年 発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間 ◆年、月、日 等の欄に書 いてください ただし、1 日本漢の場合は、時、分等 の欄に書いて ください (例:1年3 か月、5時間 20分)
	(イ) (ア) の原因		
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
手術	直後に死因に関 係しないが(例) の傷病名に影響を 及ぼした傷病名等	膀胱移行上皮癌	約2年 手術年月日 平成 X 年 6 月 10 日 昭和 X 年 7 月 25 日
	1無 ②有	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	
	①無 ②有	主要所見	
死因の種類	① 1.自死及び自然死 2.不慮の外因死 3.転倒・転落 4.溺水 5.煙、火災及び火傷による傷害 6.窒息 7.中毒 8.その他 その他の死因 9.自殺 10.他殺 11.その他及び不詳の外因 12.不詳の死		都道 府県 市 区 町村
外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が 発生し たとこ ろ
	傷害が発生 したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()	
手段及び状況			

施設の名稱			
死亡の原因	(ア) 直接死因	肺癌	不詳 発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間 ◆年、月、日 等の欄に書 いてください ただし、1 日本漢の場合は、時、分等 の欄に書いて ください (例:1年3 か月、5時間 20分)
	(イ) (ア) の原因	膀胱癌	
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
手術	直後に死因に関 係しないが(例) の傷病名に影響を 及ぼした傷病名等	左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	不詳 手術年月日 平成 X 年 6 月 10 日 昭和 X 年 7 月 25 日
	1無 ②有	部位及び主要所見	
	①無 ②有	主要所見	
死因の種類	① 1.自死及び自然死 2.不慮の外因死 3.転倒・転落 4.溺水 5.煙、火災及び火傷による傷害 6.窒息 7.中毒 8.その他 その他の死因 9.自殺 10.他殺 11.その他及び不詳の外因 12.不詳の死		都道 府県 市 区 町村
外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が 発生し たとこ ろ
	傷害が発生 したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()	
手段及び状況			

問題文

72歳男性。生来健康。特記すべき既往症なし。

血尿が出現し、病院を受診したところ、膀胱がんの診断を受けた。手術のため全身状態の精査を行ったところ、左上葉に腫瘍が見つかり、肺がんと診断された。

肺がん、膀胱がんそれぞれ手術(平成X年6月10日;左肺上葉切除術、平成X年7月25日;経尿道的腫瘍切除術)が行われ、病理組織検査の結果、肺がんは扁平上皮癌、膀胱がんは移行上皮癌であった。

手術後も経過観察を行っていたが、1年半後に肺に再発巣がみられ、再発巣の増大に伴い身体が衰弱し、初診の約2年後に死亡した。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文から、いわゆる重複がんの事例で、死因は肺の扁平上皮癌の切除後の再発と考えられます。

死因は、「左肺上葉扁平上皮癌」として、術式等も記載してください(伝聞情報をふまえても可)。

また、精度の高い正確なデータの収集のためにも分かる範囲で部位・組織型なども併せて記載をお願いします。

選択肢

正解

正解

施設の名稱																					
死亡の原因	(ア) 直接死因	肺癌		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間		不詳															
	(イ) (ア) の原因	膀胱癌						不詳													
<p>◆上欄、左欄、ともに死因の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなければなりません。</p> <p>(14)</p> <p>◆1欄では、最も死因に影響を与えた癌名を記載後、右欄には他の癌種で書いてください。</p> <p>◆1欄の癌名の記載は複数一つにしてください。 ただし、癌が不足する場合は、左欄、右欄ともに医学的立場で癌種の種類で書いてください。</p>		(ウ) (イ) の原因																			
		(エ) (ウ) の原因																			
		直欄には死因に関係ないが1欄の癌名と遡りて記載を及ぼした癌名等																			
手術	1無 <input checked="" type="radio"/> 有	部位及び主要手術 左肺上葉切除術 経尿道の腫瘍切除術		手術年月日		平成 X 年 10 月 日 昭和 X 7 25															
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 2 有	主要所見																			
(15) 死因の種類		<p>①死因及び自然死</p> <table border="1"> <tr> <td>外因死</td> <td>不慮の外因死</td> <td>2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>6窒息 7中毒 8その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他の死及び不詳の外因死</td> <td>9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因</td> </tr> <tr> <td colspan="3">12不詳の死</td> </tr> </table>								外因死	不慮の外因死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害			6窒息 7中毒 8その他		その他の死及び不詳の外因死	9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因	12不詳の死		
外因死	不慮の外因死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害																			
		6窒息 7中毒 8その他																			
	その他の死及び不詳の外因死	9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因																			
12不詳の死																					
外因死の追加事項		傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ			都道府県														
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他())			市町村														
(16)		手段及び状況																			
		◆仮開又は確定情報の場合でも書いてください																			

64歳男性。平成X年12月6日午前1時頃、○○県△△市の自宅で火災が発生した。家屋の2部屋を焼き鎮火後、火元の隣の部屋から、発見された。

発見場所の部屋はそれほど焼けていない。遺体に大きな損傷はなく、熱による損傷(火傷)もみられなかつた。死斑は鮮紅色、血液を採取し、一酸化炭素ヘモグロビン飽和度を測定したところ、83.2%であった(致死濃度:60%以上)。法医解剖では諸臓器が鮮紅色を呈し、気管内に煤の付着がみられた。

死体の所見、身体所見等から、一酸化炭素中毒による死亡と判断された。また、その後の捜査で、ストーブの火の不始末が火災の原因と判断された。

この場合、死体検案書の記載は、どのようにしたらよいでしょうか。

	施設の名稱			
死亡の原因 ◆上欄は欄とともに死因の終末期の状態といふ心不全、呼吸不全等は書かないでください。	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒		短時間 発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本漢の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例:1年、3か月、5時間20分)
	(イ) (ア) の原因			
	(ウ) (イ) の原因			
	(エ) (ウ) の原因			
(14) 手術 ◆上欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	Ⅲ 症状には死因は異なないが上欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	手術 ○無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
解剖 1無 ② 15 死因の種類 1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7毒 8その他 その他の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。			
	傷害が発生したとき 傷害が発生したところの種別 手段及び状況	16 都道府県 昭和 X 年 12月 6 日 午後 1時頃 分 △△ 郡町村 ○○ 郡町村 △△ 郡町村 ○○ 郡町村		
(16) 外因死の追加事項 ◆仮死又は確定情報の場合でも書いてください。	自宅の火災にまきこまれたもの。			

施設の名稱				
死亡の原因 ◆1機、2機とともに被災の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒		
	(イ) (ア) の原因			
	(ウ) (イ) の原因			
	(エ) (ウ) の原因			
II ◆1機では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1機の傷病名の記載は各機一つにしてください ただし、機が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間			
	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合には、時、分等の単位で書いてください (例:1年、3ヶ月、5時間20分)			
III 手術 解剖 1無 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。			
(15) 死因の種類 1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5電気・火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死				
(16) 外因死の追加事項 ◆法開又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	昭和 X 年 12 月 6 日 午後 1 時 頃 分	傷害が発生したところの種別	都道府県 区町村
	傷害が発生したところの種別	①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		△△ 都
手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。				

問題文

64歳男性。平成X年12月6日午前1時頃、○○県△△市の自宅で火災が発生した。家屋の2部屋を焼き鎮火後、火元の隣の部屋から、発見された。

発見場所の部屋はそれほど焼けていない。遺体に大きな損傷はなく、熱による損傷(火傷)もみられなかった。死斑は鮮紅色、血液を採取し、一酸化炭素ヘモグロビン飽和度を測定したところ、83.2%であった(致死濃度:60%以上)。法医解剖では諸臓器が鮮紅色を呈し、気管内に煤の付着がみられた。

死体の所見、身体所見等から、一酸化炭素中毒による死亡と判断された。また、その後の検査で、ストーブの火の不始末が火災の原因と判断された。

この場合、死体検案書の記載は、どのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は家屋火災による一酸化炭素中毒と考えられます。直接死因は一酸化炭素中毒ですが、死因の種類は火災に起因するものなので、「5.煙・火災及び火炎による傷害」となります。

火災であることは外因死の追加事項に記入いただき、その起こった場所や状況についても、分かる範囲で状況等を詳細に記載いただけようお願いします。

選択肢

		施設の名稱			
1	死亡の原因 ◆「癌」、「腫瘍」とともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1歳では、最も死亡に影響を与えた疾患名を医学的因果関係の欄まで書いてください。 ◆「癌」の疾患名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、癌が不足する場合は「(エ)癌」に残り、他の因果関係の欄まで書いてください。	(ア) 直接死因 (イ) (ア)の原因 (ウ) (イ)の原因 (エ) (ウ)の原因 目 標 は あれば死因は開 きしないが「癌」 の疾病名に影響を 及ぼした疾患名等	一酸化炭素中毒	短時間	
				発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	
				◆年、月、日 等の暦日で書 いてください。 ただし、1 日本語の場合 は、時、分等 の單位で書い てください。 (例：1年3 ヶ月、5時間 20分)	
				手 術 手 術 解 剖 解 剖	① 有 ② 有
(14)	1 病死及び自然死 不慮の外因死 外因死 その他の死		2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 煙・火災及び火炎による傷害 6 室息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死		
	傷害が発生 したとき		昭和 X 年 12 月 6 日 午後 1 時 頃 分		
(15)	傷害が発生 したとき		都道 府 県 区 市 町 村		
	傷害が発生 したところの種別		△△ ①居 2 工場及び 建築現場 3 道路 4 その他 ()		
(16)	手段及び状況		自宅の火災にまきこまれたもの。		

		施設の名稱			
2	死亡の原因 ◆「癌」、「腫瘍」とともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1歳では、最も死亡に影響を与えた疾患名を医学的因果関係の欄まで書いてください。 ◆「癌」の疾患名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、癌が不足する場合は「(エ)癌」に残り、他の因果関係の欄まで書いてください。	(ア) 直接死因 (イ) (ア)の原因 (ウ) (イ)の原因 (エ) (ウ)の原因 目 標 は あれば死因は開 きしないが「癌」 の疾病名に影響を 及ぼした疾患名等	一酸化炭素中毒	短時間	
				発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	
				◆年、月、日 等の暦日で書 いてください。 ただし、1 日本語の場合 は、時、分等 の単位で書い てください。 (例：1年3 ヶ月、5時間 20分)	
				手 術 手 術 解 剖 解 剖	① 有 ② 有
(14)	1 病死及び自然死 不慮の外因死 外因死 その他の死		2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 ⑤ 煙・火災及び火炎による傷害 6 室息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死		
	傷害が発生 したとき		昭和 X 年 12 月 6 日 午後 1 時 頃 分		
(15)	傷害が発生 したとき		都道 府 県 区 市 町 村		
	傷害が発生 したところの種別		△△ ①居 2 工場及び 建築現場 3 道路 4 その他 ()		
(16)	手段及び状況		自宅の火災にまきこまれたもの。		

正解

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、○○県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後CT検査も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検案の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

施設の名称			
死亡の原因 ◆「機、日歴」ともに死因の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆2欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア) 直接死因 I (イ) (ア) の原因 (ウ) (イ) の原因 (エ) (ウ) の原因 II 直接には死因に関係しないが他の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	雷撃症 発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の單位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	短時間
	手術 ①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖 ①無 2有	主要所見	
死因の種類 外因死の追加事項 ◆仮死又は確定情報の場合でも書いてください	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	傷害が発生したとき 傷害が発生したところの種別 手段及び状況	平成 昭和 X年 6月 10日 午前・午後 2時 頃 分 1住居 2工場及び建築現場 3道路 ④その他(ゴルフ場)	傷害が発生したところ △△市 都道府県 区 郡 町村
ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。			

施設の名称			
死亡の原因 ◆「機、日歴」ともに死因の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆2欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア) 直接死因 I (イ) (ア) の原因 (ウ) (イ) の原因 (エ) (ウ) の原因 II 直接には死因に関係しないが他の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	落雷 発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	短時間
	手術 ①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖 ①無 2有	主要所見	
死因の種類 外因死の追加事項 ◆仮死又は確定情報の場合でも書いてください	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	傷害が発生したとき 傷害が発生したところの種別 手段及び状況	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	傷害が発生したところ 市 都道府県 区 郡 町村
手段及び状況			

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、○○県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後CT検査も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検査の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。

この場合、死体検査書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は落雷による「雷撃症」と考えられました。死因欄の記載は、状況としては「落雷」ですが、傷病名での記載になりますので、「雷撃症」、死因の種類は「8.その他の外因死」となります。

また、外因死の追加事項につきましても、分かる範囲で状況等について詳細な記載が必要です。

選択肢

施設の名称						
死亡の原因	(ア) 直接死因	雷撃症		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、1 日本語の場合 は、時、分等 の単位で書いて ください (例:1年3 ヶ月、5時間 20分)	短時間
	(イ) (ア) の原因					
	(ウ) (イ) の原因					
	(エ) (ウ) の原因					
(14)	目	直接には死因に関 係しないが(ア)の 傷病経過に影響を 及ぼした傷病名等				
	手 術	部位及び主要所見 <input checked="" type="radio"/> 有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
	解 剖	主要所見 <input checked="" type="radio"/> 有				
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 燐、火災及び火炎による傷害 6 窒息 7 中毒 <input checked="" type="radio"/> その他 その他の死及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
	外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成 昭和 X 年 6 月 10 日 午前・午後 <input checked="" type="radio"/> 2 時 頃 分	傷害が発生し たところ	<input checked="" type="radio"/> ○○	都道府 県
		傷害が発生した ところの種別	1 住居 2 工場及び 建築現場 3 道路 <input checked="" type="radio"/> ① の他 (ゴルフ場)		<input checked="" type="radio"/> △△市	区 部 町村
(16)	手段及び状況	ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。				

正解

施設の名称						
死亡の原因	(ア) 直接死因	落雷		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、1 日本語の場合 は、時、分等 の単位で書いて ください (例:1年3 ヶ月、5時間 20分)	短時間
	(イ) (ア) の原因					
	(ウ) (イ) の原因					
	(エ) (ウ) の原因					
(14)	目	直接には死因に関 係しないが(ア)の 傷病経過に影響を 及ぼした傷病名等				
	手 術	部位及び主要所見 <input checked="" type="radio"/> 有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
	解 剖	主要所見 <input checked="" type="radio"/> 有				
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 燐、火災及び火炎による傷害 6 窒息 7 中毒 <input checked="" type="radio"/> その他 その他の死及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
	外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成 昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生し たところ	<input checked="" type="radio"/> ○○	都道府 県
		傷害が発生した ところの種別	1 住居 2 工場及び 建築現場 3 道路 4 その他 ()		<input checked="" type="radio"/> △△市	区 部 町村
(16)	手段及び状況	ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。				

52歳男性。○○県△△市。通行量の少ない道路脇に駐車中の車内で死亡しているのを発見された。窓ガラスは目張りされ、「毒ガス危険、近づくな」との張り紙があった。車内には、洗面器に入った硫黄臭のする泥状のものが残されており、入浴剤とトイレ洗剤の空き容器も見つかった。また、所持品のカバンから遺書が見つかった。

死因は硫化水素中毒と判断された。

この場合、死体検査書の死因、死因の種類等は、どのようにしたらよいでしょうか。

施設の名称				死因の種類 外因死の追加事項 ◆云々	
死亡の原因 ◆1欄、2欄とともに死因の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた死因名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の死因名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残り医学的因果関係の順番で書いてください。	(ア)直接死因	硫化水素中毒			
	(イ)(ア)の原因	発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間			
	(ウ)(イ)の原因	◆年、月、日等の單位で書いてください ただし、1日本満の場合は、時、分等の單位で書いてください (例:1年3ヶ月、5時間20分)			
	(エ)(ウ)の原因				
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
解剖	①無 2有	主要所見			
死因の種類 外因死の追加事項 ◆云々		1病死及び自然死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 外因死 6窒息 7中毒 8その他 その他の死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
外因死の追加事項 ◆云々		傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 3 月 20 日 午前(午後) 4 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 市区 □□ 町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 ①その他(自動車内)		
手段及び状況		道路脇に駐車中の車内で硫化水素を発生させて死亡していたといふ。			

施設の名称				死因の種類 外因死の追加事項 ◆云々	
死亡の原因 ◆1欄、2欄とともに死因の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた死因名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の死因名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残り医学的因果関係の順番で書いてください。	(ア)直接死因	硫化水素中毒			
	(イ)(ア)の原因	発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間			
	(ウ)(イ)の原因	◆年、月、日等の單位で書いてください ただし、1日本満の場合は、時、分等の單位で書いてください (例:1年3ヶ月、5時間20分)			
	(エ)(ウ)の原因				
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
解剖	①無 2有	主要所見			
死因の種類 外因死の追加事項 ◆云々		1病死及び自然死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 外因死 6窒息 ⑦毒 8その他 その他の死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
外因死の追加事項 ◆云々		傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 3 月 20 日 午前(午後) 4 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 市区 □□ 町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 ①その他(自動車内)		
手段及び状況		道路脇に駐車中の車内で、死亡しているのを発見された。			

問題文

52歳男性。○○県△△市。通行量の少ない道路脇に駐車中の車内で死亡しているのを発見された。窓ガラスは目張りされ、「毒ガス危険、近づくな」との張り紙があった。車内には、洗面器に入った硫黄臭のする泥状のものが残されており、入浴剤とトイレ洗剤の空き容器も見つかった。また、所持品のカバンから遺書が見つかった。

遺体の全身は暗緑色を呈していた。死体の所見、身体所見等から、死亡日時は、平成X年3月20日午後4時頃、死因は硫化水素中毒と判断された。

この場合、死体検案書の死因、死因の種類等は、どのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は硫化水素中毒と考えられます。直接死因は硫化水素によるものですが、自殺の手段として用いているので、死因の種類は「9.自殺」となります。

外因死の追加事項には、その起こった場所や状況についても、分かる範囲で状況等を詳細に記載します。

選択肢

施設の名称					
死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	短時間
	(イ) (ア) の原因				
	(ウ) (イ) の原因				
	(エ) (ウ) の原因				
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日	
	②無 2有	主要所見			
死因の種類	1 病死及び自然死				
	外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 熊・火災及び火炎による傷害 6 窓ガラス破損 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 ⑨自殺 10 動物咬傷 11 その他及び不詳の外因死				
	12 不詳の死				
外因死の追加事項	傷害が発生したとき		昭和 X 年 3 月 20 日 午前 <input checked="" type="radio"/> 4 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 市区町村
	傷害が発生したところの種別		1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ④他の(自動車内)		
手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で硫化水素を発生させて死亡していたという。					

正解

施設の名称					
死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	短時間
	(イ) (ア) の原因				
	(ウ) (イ) の原因				
	(エ) (ウ) の原因				
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日	
	②無 2有	主要所見			
死因の種類	1 病死及び自然死				
	外因死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 熊・火災及び火炎による傷害 6 窓ガラス破損 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 ⑨自殺 10 動物咬傷 11 その他及び不詳の外因死				
	12 不詳の死				
外因死の追加事項	傷害が発生したとき		昭和 X 年 3 月 20 日 午前 <input checked="" type="radio"/> 4 時 頃 分	傷害が発生したところ	○○ 都道府県 △△ 市区町村
	傷害が発生したところの種別		1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ④他の(自動車内)		
手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で、死亡しているのを発見された。					

47歳女性。平成X年3月16日、午後2時頃、○○県△△市の自宅室内で死亡しているのを発見された。数年前からうつ病にて、通院・投薬治療を受けていた。

室内のゴミ箱から大量の三環系抗うつ薬の空き包装が発見された。死体検案では、明らかな損傷等はなく、死後画像検査(CT)にて、胃内に高吸収を示す沈渣が多量みられた。尿の薬物簡易検査で三環系抗うつ薬が陽性であった。

死体の所見、身体所見等から、薬物の過剰摂取による死亡と判断された。死体现象から死亡時刻は3月16日、午前2時頃、薬物服用はその少し前と考えられた。警察の捜査で、意図して摂取したか、誤って大量に服薬したか判然としない。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」等の記載をどのようにしたらよいでしょうか。

施設の名稱				
(14) 死亡の原因	(ア) 直接死因	三環系抗うつ薬中毒(推定)		
	(イ) (ア) の原因	発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間		
	I (ウ) (イ) の原因	◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、1 日本漢の場合は、時、分等 の単位で書い てください (例: 1年 3 か月、5時間 20分)		
	II (エ) (ウ) の原因			
	III 直接には死因に関 係しないが(ア)の 疾病経過に影響を 及ぼした疾患名等			
	手術	部位及び主要所見 <input checked="" type="radio"/> 1 有 2 有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	主要所見 <input checked="" type="radio"/> 1 有 2 有			
(15) 死因の種類	1 病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 6窒息 7中毒 8その他	2 交通事故 3 転倒・転落 4 潟水 5 撃、火災及び火炎による傷害	
	その他の死因	その他の死因 9自殺 10他殺	11その他及び不詳の死	
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成 昭和 X 年 3 月 16 日 午前 2時頃 分	傷害が 発生したと ころ	都道 府県 区 町村
	傷害が発生 したところの種別	<input checked="" type="radio"/> 1 家居 2 工場及び 建築現場 3 道路 4 その他 ()	△△ 山	
	手段及び状況	自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。		
◆仮開闢又は確定 情報なども書いてください				

施設の名稱		死亡の原因		死因の種類		外因死の追加事項		
(14)	(ア) 直接死因	薬物中毒(推定)		短時間				
	(イ) (ア) の原因			発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間				
	I (ウ) (イ) の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本漢の場合には、時、分等の單位で書いてください (例：1年、3か月、5時間20分)				
	II (エ) (ウ) の原因							
手術	①無 2有	部位及び主要所見		手術年月日		平成 年 月 日	→1に記入して下さい	
	解剖	①無 2有	主要所見					
(15)	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 6窒息 7毒 8その他の死 その他及び不詳の外因死 12 不詳の死		2 交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因				→2から事実を記入して下さい	
							→3に記入して下さい	
(16)	傷害が発生したとき		平成昭和 X年3月16日 午前2時頃		傷害が発生したところ		○○	都道府県区町村
	傷害が発生したところの種別		1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()				△△	→4に記入して下さい
手段及び状況 自宅室内で死亡していた。								
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください								

問題文

47歳女性。平成X年3月16日、午後2時頃、○○県△△市の自宅室内で死亡しているのを発見された。数年前からうつ病にて、通院・投薬治療を受けている。

室内のゴミ箱から大量の三環系抗うつ薬の空き包装が発見された。死体検案では、明らかな損傷等ではなく、死後画像検査(CT)にて、胃内に高吸収を示す沈渣が多量みられた。尿の薬物簡易検査で三環系抗うつ薬が陽性であった。

死体の所見、身体所見等から、薬物の過剰摂取による死亡と判断された。死体现象から死亡時刻は3月16日、午前2時頃、薬物服用はその少し前と考えられた。警察の捜査で、意図して摂取したか、誤って大量に服薬したか判然としない。この場合、死体検案書の「死亡の原因」等の記載をどのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は三環系抗うつ薬による「中毒死」と推定されます。死因欄の記載は、薬品名が分かるようなら、「三環系抗うつ薬中毒(推定)」、あるいは、外因死の追加事項に薬品名、化学物質名を分ける範囲で記載します。自殺か不慮の事故かが不明な場合、死因の種類は「11.その他及び不詳の外因死」を選択します。

外因死の追加事項は、分ける範囲で状況等を詳細に記載してください。

選択肢

		施設の名称				
1	死亡の原因 ◆1歳以上とともに死因の特徴としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1歳では、最も死亡に影響を与えた疾患名を医学生用語表の順番で書いてください。 ◆1歳の疾患名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	(ア)直接死因 (イ)(ア)の原因 (ウ)(イ)の原因 (エ)(ウ)の原因	三環系抗うつ薬中毒(推定)		短時間 ◆年、月、日等の單位で書いてください ただし、1日未満の場合には、時、分等の單位で書いてください (例：1年3ヶ月、5時間20分)	
			発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間			
			部位及び主要所見 手術 ①無 2有			手術年月日 平成 年 月 日 昭和
			主要所見 解剖 ①無 2有			
(14)	1死因及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他の その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死					
	傷害が発生したとき 外因死の追加事項 傷害が発生したところの種別 ①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		傷害が発生したところ 都道府県 △△市 郡 町村			
	手段及び状況 自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。					
(15)	1死因及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他の その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死					
	傷害が発生したとき 外因死の追加事項 傷害が発生したところの種別 ①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()					
	手段及び状況 自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。					

正解

		施設の名称				
2	死亡の原因 ◆1歳以上とともに死因の特徴としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1歳では、最も死亡に影響を与えた疾患名を医学生用語表の順番で書いてください。 ◆1歳の疾患名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	(ア)直接死因 (イ)(ア)の原因 (ウ)(イ)の原因 (エ)(ウ)の原因	薬物中毒(推定)		短時間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合には、時、分等の単位で書いてください (例：1年3ヶ月、5時間20分)	
			発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間			
			部位及び主要所見 手術 ①無 2有			手術年月日 平成 年 月 日 昭和
			主要所見 解剖 ①無 2有			
(14)	1死因及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他の その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死					
	傷害が発生したとき 外因死の追加事項 傷害が発生したところの種別 ①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		傷害が発生したところ 都道府県 △△市 郡 町村			
	手段及び状況 自宅室内で死亡していた。					
(15)	1死因及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他の その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死					
	傷害が発生したとき 外因死の追加事項 傷害が発生したところの種別 ①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()					
	手段及び状況 自宅室内で死亡していた。					
(16)	1死因及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他の その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死					
	手段及び状況 自宅室内で死亡していた。					

92歳男性。生来健康。既往歴としては、73歳のときに胃がんを手術。

数ヶ月前から体力が低下し、あまり外出しなくなつた。2週間ほど前から起き上がりがれなくなり、同居家族が世話をしていたが、食事摂取も低下してきたため、病院を受診、入院した。

顕著な症状はなく、入院後の検査では、特に異常も発見されなかつたが、徐々に衰弱し、一昨日からは意識の状態が低下、昨日夜からは末梢循環不良のため腋窩温が低下していた。本日朝、死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

施設の名称					
死亡の原因	(ア) 直接死因	低体温	発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	不詳	
	(イ) (ア) の原因				
	(ウ) (イ) の原因			◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、1 日本満の場合は、時、分等 の単位で書い てください (例: 1年、3 か月、5時間 20分)	
	(エ) (ウ) の原因				
	II 直接には死因に関 係しないが、他の 疾患経過に影響を 及ぼした疾病名等				
手 術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	②無 2有	主要所見			
死因の種類	①高死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火端による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他の死及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因				
	12不詳の死				
	外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が 発生し たとこ ろ	都道 府県 市区 郡町村
	◆仮認又は確定 情報の場合でも 書いてください	傷害が発生 したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()		
手段及び状況					

施設の名称					
死亡の原因	(ア) 直接死因	老衰	発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	約2週間 (不詳も可)	
	(イ) (ア) の原因				
	(ウ) (イ) の原因			◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、1 日本満の場合は、時、分等 の単位で書い てください (例: 1年、3 か月、5時間 20分)	
	(エ) (ウ) の原因				
	II 直接には死因に関 係しないが、他の 疾患経過に影響を 及ぼした疾病名等				
手 術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	②無 2有	主要所見			
死因の種類	①高死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火端による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他の死及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因				
	12不詳の死				
	外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が 発生し たとこ ろ	都道 府県 市区 郡町村
	◆仮認又は確定 情報の場合でも 書いてください	傷害が発生 したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()		
手段及び状況					

問題文

92歳男性。生来健康。既往歴としては、73歳のときに胃がんを手術。

数ヶ月前から体力が低下し、あまり外出しなくなった。2週間ほど前から起き上がれなくなり、同居家族が世話をしていたが、食事摂取も低下してきたため、病院を受診、入院した。

顕著な症状はなく、入院後の検査では、特に異常も発見されなかつたが、徐々に衰弱し、一昨日からは意識の状態が低下、昨日夜からは末梢循環不良のため腋窩温が低下していた。本日朝、死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は老衰であると推測されます。

死亡直前には、顕著な低体温がみられたとのことですが、これは終末状態でみられたものと思われ、環境要因による低体温(いわゆる「凍死」とは異なります)。ですから、「死因の種類」も「1.病死および自然死」を選択されていると思います。

終末状態の「低体温」を死因に選択することは好ましくありませんので、高齢者で他に記載すべき原因がない場合は、「老衰」の記載が適切です。

選択肢

施設の名称			
死亡の原因	(ア) 直接死因 低体温	発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	不詳
	(イ) (ア) の原因		
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
死因の種類	直後には死因に関 係しないが(ア)の 傷病經過に影響を 及ぼした傷病名等	(例) 1年3 ヶ月、5時間 20分	
	外因死		手術年月日
外因死の追加事項	①無 2有	傷害が発生 したとき	都道府県 市区町村
	①無 2有		
	①無 2有		
死因の種類	①病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4落水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他の死及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	傷害が発生 したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	
外因死の追加事項	傷害が発生 したところの種別	傷害が発生 したところの種別	市 郡 区 町 村
	手段及び状況		

施設の名称			
死亡の原因	(ア) 直接死因 老衰	発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	約2週間 (不詳も可)
	(イ) (ア) の原因		
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
死因の種類	直後には死因に関 係しないが(ア)の 傷病經過に影響を 及ぼした傷病名等	(例) 1年3 ヶ月、5時間 20分	
	外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4落水 5煙、火災及び火炎による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他の死及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生 したとき	傷害が発生 したとき	都道府県 市区町村
	傷害が発生 したところの種別		
	手段及び状況		

正解

研究グループ

このe-ラーニングの作成は
平成28-29年度厚生労働科学研究費補助金
(統計情報総合 研究事業)
「適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発」
により行われた。

研究代表者

木下博之 香川大学医学部人間社会環境医学講座・法医学 教授

研究分担者

池松 和哉 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・法医学分野 教授

横田順一朗 独立行政法人堺市立病院機構 副理事長

加藤 稲子 三重大学大学院周産期発達障害予防学講座・小児科学 教授

鷺見 幸彦 国立長寿医療研究センター・神経内科 副院長

横井 英人 香川大学医学部附属病院・医療情報部 教授

宮武 伸行 香川大学医学部人間社会環境医学講座・衛生学 准教授

